地震だあ

天災は忘れたころにやってくる

地震を想定して身の安全を確保している

Close up

経済学部棟で消防訓練 東京消防庁から合格点もらう

中央大学多摩キャンパス経済学部棟の消防訓練が10月28日に行われ、経済学部棟に在館していた全学生・教職員約700人が参加した。

〔消防訓練とは、消火訓練、通報連絡訓練、避難訓練を行う訓練〕

消防訓練は「関東地方に震度6弱の地震が発生した」という想定で始まった。正午、地震発生を知らせる館内放送で周知を図る。各教室・事務室などでは机の下に身を隠すなどして身の安全を確保した。

訓練の対象者は学生、教職員総勢700人。火災の発生はなく、建物の安全が確保されると、今後予想される大きな余震に備え、避難場所の陸上競技場へ早歩きで移動した。

誘導スタッフはヘルメットをかぶり、胸や背中に「経済学部」と大書されたオレンジ色のビブスを着用、大きな声と大きな手振りで誘導する。

この間も「安全防護班」が各教室の被災状況を確認。「けが人はいませんか」と声掛けした。確認のためのトランシーバーはフル稼働だ。

誘導されての避難の様子

学生らは各教室から階段を使って、次々に陸上競技場へ。避難状況を確認した後、保存水やカンパン、防災ポケットなどを受け取り、解散した。

この後は総合政策学部棟近くで「消火訓練」。消防署員の指導による初期消火を実際に体験した。「使い方を覚えていただくことが大事です」と東京消防庁。燃え盛る火にこわごわ近づいた人も消火器を使い、火を消すとホッとした表情を見せた。

学生、教職員による消火訓練の様子

場所を8号館の教室に移した「講評」では、同庁からお褒めの言葉が相次いだ。「高いレベルの訓練でした。オレンジのビブスは避難する側から見ると分かりやすい。基本はできていますから、今後は負傷者2人という想定を実際は『もう一人、いた』と3人目の発見を知らせ、対応をどうするかという訓練もあります」とは八王子消防署柚木分署の早坂署長。「風呂に入っていても、いま地震が起きたらどうするか、考えることが大事です」と提言した。

大規模災害が想定される昨今。中大キャンパスの教職員、学生の防災意識を高め、自衛消防能力の向上を目的とした消防訓練。既に法学部、商学部、理工学部、文学部では実施している。